

学会創立40周年記念行事報告

創立40周年記念事業実行委員会

1. はじめに

本学会は1972年（昭和47年）6月に日本ガスタービン会議として発足し、その後1976年（昭和51年）6月に社団法人に改組された。更に昨年3月には公益社団法人として再出発し、現在に至っている。これまで創立10周年、20周年、30周年と記念事業を実施し、また25周年には学会25年史が刊行された。これらの事業を継続して、創立40周年を迎える2012年度に記念事業を実施することとし、2010年末から計画を開始して、2011年度に準備委員会を発足させ、準備を行って来た。本年4月20日の通常総会の日には記念行事を実施し、盛況のうちに無事終了した。

創立記念事業を継続的に実施することは、学会の歩み、日本のガスタービン技術の歩みを振り返るとともに、今後の一層の発展に向けて語り合う機会を設ける、意義の深い事業であると考えられる。

ここでは40周年記念行事の実施状況を報告するとともに、記念事業全体の準備経過と企画の概要をご紹介します。

2. 創立40周年記念事業の概要と記念行事の準備経過

上で述べた経緯および観点から、創立40周年記念事業は以前から想定され、予算手当ても計画されて来た。公益社団法人となってからは記念事業積立金が計画的に運用されており、長期計画のもとで予算措置が行われている。

2010年12月に当時の野崎理総務委員長を中心として関係者による打ち合わせ会議が持たれ、基本的な方針が検討された。その結果40周年事業は学会の財政状況等を考慮して実施することを理念とし、式典や出版などを実施することが提示された。これを受けて2011年度に創立40周年記念事業準備委員会が設置された（2012年度初頭から実行委員会に改称）。委員会で事業の具体計画が立案され、最終的に創立40周年記念事業として、記念行事（集会）・出版・表彰の各事業を実施することとなった。

2.1 記念行事

2012年4月20日（金）の通常総会に合わせて記念集會を開催する計画のもと、総会終了後に記念式典・記念講演・祝賀パーティーを実施することとした。会場は総会と同じ三菱重工横浜ビル33階を使わせていただくことで準備が進められた。

記念式典は2002年の30周年記念式典に倣って実施する方針で、祝辞の他、功労者表彰や感謝状の贈呈、出版事

業の紹介等を行うこととした。その後、記念講演2件をお願いする企画を立案し、航空エンジンの展望と産業用ガスタービンの展望をそれぞれ40分程度でお話いただく計画を進めた。また、夕刻からは祝賀パーティーを会費制で実施する方針とした。それぞれの企画については以下に報告される。

2.2 出版事業

(1)ガスタービン教科書の出版

ガスタービンの基礎的な教科書を刊行することが技術普及委員会により計画され、企画が進行している。この教科書はこれまで教育シンポジウムで使われてきた教材をベースに内容を改訂し、体裁を整えた上で学会から発刊するものである。創立40周年記念事業として2012年度に編集作業を行い、2013年春に発行する計画である。

(2)学会誌記事

2012年度の学会誌に記念記事を掲載する予定である。現在、学会誌編集委員会により年度内に掲載する方向で計画が練られている。また、2012年発行の各号表紙に創立40周年のロゴを載せることになり、既に1月号から実施されている。

2.3 表彰・感謝状贈呈

創立20周年および30周年記念事業で実施された功労者の表彰を、今回も同じ要領で実施することとした。また、学会活動への貢献度が高い賛助会員・協賛企業に感謝状を、やはり30周年のときに準じて贈呈することとした。

実行委員会構成（敬称略）

委員長：筒井康賢

委員：太田有、幸田栄一、福山佳孝、二村尚夫、船崎健一、山本誠、渡辺紀徳

3. 記念式典

2012年4月20日（金）15：30～16：30、三菱重工（株）横浜ビル33階大会議室において、日本ガスタービン学会創立40周年記念式典が挙行された。参加者は約110名であった。以下、式次第の順に概要を報告する。

開会にあたり、筒井実行委員長からの挨拶があり、多くの学協会において会員数が減少傾向にある中、本会の会員数は減少しておらず、会員諸氏の本会諸活動への協力に感謝の意を表するとともに、今後もこのすばらしい

伝統を引き継いで行きたい旨の発言があった。

佃嘉章会長から、本会を代表して挨拶が行われた。40年前の本会創立時のエピソードがユーモアを交えて紹介され、本会の次の10年を会員諸氏が一致団結して作っていくという、全会員のガスタービンに対する思いを代弁するかなのような力強い発言で締めくくられた(写真1参照)。

続いて他学協会からの来賓による祝辞をいただいた。まず、日本機械学会会長・金子成彦殿(東京大学)の代理として日本機械学会理事・植田利久殿(慶應義塾大学)より、福島第一発電所の事故を踏まえ、エネルギー問題が我が国喫緊の課題であり、その解決に向けてガスタービンが果たす役割は非常に重要である旨の言葉をいただいた。日本航空宇宙学会会長・川口淳一郎殿(JAXA)からは、製造から創造へのパラダイムシフトに直面している現在、日本航空宇宙学会と日本ガスタービン学会には、より緊密な協力関係の構築が必要であり、共に頑張っていきたいという旨の祝辞をいただいた。ターボ機械協会会長・坂口順一殿(千代田化工建設)からは、この40年でガスタービンにイノベーションが起き、これからはガスタービンが真に活用される時代である。そのような時代においてターボ機械協会と日本ガスタービン学会が一層協力することが必要である旨の言葉をいただいた。最後に、ASME-IGTI理事・Seung Jin Song殿(ソウル国立大学)から、ガスタービンはエネルギー分野および輸送分野で非常に重要な役割を担っており、日本ガスタービン学会の貢献は非常に大きい。また、ASME-IGTIと日本ガスタービン学会との協力関係は長年に亘り続いており、一層の協力関係を築きたいとの祝辞をいただいた(写真2)。

次に祝辞披露として、韓国流体機械協会(KFMA)、中国科学アカデミー(CAS)、ドイツ機械学会(VDI)、フランス機械学会(SFM)からの祝辞が読み上げられた。いずれも本会40周年を祝い、協力関係に感謝する内容となっていた(時間の都合で一部省略)。

引き続き佃会長より、これまで本会に顕著な貢献があった方々に功労賞を贈呈する旨の趣旨説明があり、正面スクリーンに示された39名の方々が紹介された。また同会長により感謝状贈呈が行われた。(詳細は後述する。)

最後に、福山佳孝記念出版事業委員長(JAXA)より、本会40周年を記念して出版する予定のガスタービン教科書について、その内容と出版スケジュールが紹介され、滞りなく記念式典が閉会となった。

4. 記念講演会

創立40周年記念行事の一環として、記念式典と同じ三菱重工業(株)横浜ビル33階大会議室において16:30～18:00に記念講演会が開催され、航空機用エンジンおよび産業用ガスタービンのそれぞれに関する技術動向や展望に関する2件の講演がなされた。記念講演会は当学会



写真1 佃会長による挨拶



写真2 Song教授による祝辞

会員以外の参加も広く受け付けることとして実施され、約110名の聴衆が参加した。以下に講演の概要を記す。

1件目の講演は(株)IHI航空宇宙事業本部長の石戸利典氏より「航空機用エンジンの動向」と題して、航空機用エンジン技術開発動向、わが国における開発の歩み、航空機開発における事業構造、当該分野におけるわが国の技術力、競争力の向上に向けた進言がなされた。先ず技術動向として高バイパス比化、高圧力比化、高温化などの技術動向が紹介され、引き続きわが国における民間用や防衛省用エンジンの開発の歴史が紹介された。さらに、航空機開発における事業環境や事業構造が説明され、巨額の投資が必要となる次世代機の開発には、国際的な行動開発、アライアンスが不可欠なことが説明された。さらにその中でわが国の総合技術力や競争力を向上させていくための方策として、素材技術などの強みを生かしてコスト競争力で世界の先頭を目指すべきなどの提案がなされた。

2件目の講演は三菱重工業(株)原動機事業本部長代理の六山亮昌氏より「産業用ガスタービンの最新技術動向と展望」と題して、同社における産業用ガスタービン技術開発のこれまでの流れと今後に向けた取り組みが紹介された。同社はこれまでも世界に先駆けて高温・高効率



写真3 石戸氏による講演



写真4 六山氏による講演

化を進め、昨年には1600℃級のM501Jガスタービンの出荷を開始した。この開発にはムーンライト計画における高効率ガスタービンの開発や1700℃級ガスタービンを対象とした要素技術開発、実用化技術開発などの国のプロジェクトにおける研究開発成果が活用されており、ガスタービン開発における国のプロジェクトの重要性が強調された。さらに要素技術開発についても最新の技術開発動向が紹介されるとともに、燃料多様化への取り組みとしてBFG焚コンバインドサイクルや石炭ガス化複合発電（IGCC）への取り組み状況や太陽熱ガスタービンの検討状況が紹介された。

5. 祝賀パーティー

40周年記念式典に引き続き、18時30分より同じく三菱重工横浜ビル33階において祝賀パーティーが開催された。坂田公夫副会長の挨拶、GTSJ設立を良くご存知の高田浩之東京大学名誉教授のご発声による乾杯でパーティーは賑やかに始まった。公益社団法人としての初めての総会を終えて、ようやく参加者の緊張もほぐれ、旧知の親交を深める人、産学官、長幼の垣根を越えて、技術者同士の交流の花が咲き、40年間、変わらずに続いている当学会の開放的な気風が、本学会員の底流に流れていることを感じるひとときである。見晴らしの良い窓越しに横

浜港の夕景が沈み、ベイブリッジの夜景が浮かび上がるころには、学会賞受賞者の方々から受賞の喜びと現在の取り組み、若い奨励賞受賞者には指導された教官からの激励などが披露され、さらに、有賀一郎慶応大学名誉教授より、40年前に遡って設立当時の苦心と思い出話とソウル国立大学のSeung Jin Song 教授からは、この10年での学会の国際化への努力と称賛、今後の協力を望む内外の声が伝えられた。また功労者を代表して、速水洋九州大学名誉教授のご挨拶を頂き、締めくくりに、日常の学会活動を支えて頂いている事務局の職員の皆様への感謝状が贈呈され、和やかなうちに10年後の一層の盛会を期して、筒井康賢実行委員長の手締めで散会となった。

6. 功労賞・感謝状

創立から40年間、本学会は多くの個人会員の方々や賛助会員のご協力に支えられ発展を続けて来た。

学会活動と運営への顕著なご貢献を顕彰するため、創立20周年には134名、30周年には32名の個人会員に功労賞が授与されている。この度はその後の10年間も含めて多大な貢献をいただいた個人会員39名の方々を対象に、記念式典会場において佃嘉章会長から功労賞が贈呈された。受賞者の方々は、これまでの功労賞受賞者および名誉会員を除く個人会員の中から、会長、副会長、監事、理事、委員長、委員の経験回数をもとに、実行委員会で候補者を選出し、理事会で審議決定された。

一方、学会の運営に大きく貢献された賛助会員・協会の会社のうちから、ガスタービン・エネルギー技術の発展のみならず、広告などを通して顕著なご支援をいただいた8社に感謝状を贈呈した。

功労賞受賞者（五十音順、敬称略）

壹岐 典彦	伊佐治 強彦	石井 潤治
石田 克彦	太田 有	加藤 千幸
川池 和彦	木村 武清	古賀 勉
児玉 秀和	小森 豊明	杉本 隆雄
鈴木 和雄	園田 豊隆	瀧花 清作
武石 賢一郎	武田 淳一郎	辻川 吉春
辻田 星歩	野崎 理	橋本 啓介
服部 学明	林 茂	速水 洋
福田 雅文	福山 佳孝	藤岡 昌則
藤綱 義行	二村 尚夫	船崎 健一
真家 孝	三嶋 英裕	満岡 次郎
三卷 利夫	宮下 和也	六山 亮昌
山根 敬	吉岡 洋明	渡辺 康之

感謝状贈呈先（五十音順、敬称略）

(株)IHI	川崎重工業(株)
(株)東芝	ニッセイエブロ(株)
(株)日立製作所	丸和電機(株)
三井造船(株)	三菱重工業(株)